

航空振興財団 航空少年団本部主催 第37回「航空教室」概要報告

実施日：平成25年10月12日(土)～14日(月/休)

宿泊所：石岡市国民宿舎つくばね(茨城県石岡市)

訓練場：石岡市国民宿舎つくばね(茨城県石岡市)

エアパークCOOパラグライダースクール(茨城県石岡市)

協力：関東地区航空少年団

航空少年団の運営で、指導者としての幹部団員のための研修プログラム「航空教室」は航空青年の国際相互研修と並んで航空少年団本部の事業として毎年実施されています。

今年の第37回航空教室は関東地区茨城県石岡市つくば山麓に拠点を置いて、昨年と同様なプログラムにて行います。

主訓練として、今年もパラグライダー訓練を茨城県石岡市のエアパーク・COOパラグライダースクールに委託して主にタンデム高高度フライト体験を行うこととしました。

パラグライダー訓練は当初、各団に指導者を養成するという事で過去数回実施しましたが天候に恵まれず思うような訓練が出来なかった事のほうが多かったのが実情でした。しかも年一度の訓練では指導者を養成するのは無理だと言うことで平成19年度の熊本開催を最後に中止することとなった経緯は過去にもお知らせしたところです。

しかし、パラグライダーを活動の一環として取り入れる団が増えており、本部所有のジュニアパラグライダー借用依頼が増えています。それに伴って使い方を教えて欲しい、借用期間の延長などの要請もあり積極的に取り組んでいる団もあります。

本部としては年一度の訓練を数回実施して指導者を養成するのは非現実的と捉えており、それよりも航空教室でプロによる高高度タンデムフライトを経験して頂いて興味を持ってもらい、その中から地方のスクールでパイロットライセンスを取得して、知識・経験をしっかり身につけていただいてからジュニアパラグライダーの指導をして頂けたらと思っております。



宿泊所 国民宿舎つくばね



エアパーク COO パラグライダースクール

今年の航空教室では北は北海道千歳団、南は九州宮崎団まで8団19名の研修生を招き、航空少年団本部のある羽田空港の財団法人 航空振興財団にて開講式を開きスタートしました。昨年と比べると参加団、参加人数共に減りましたが初めて参加して頂いた団員が多く、新鮮な面持ちでメリハリの効いた教室になったのではと思いました。今回は昨年の経験から概ね予定時刻通りに余裕を持って進行できました。特に各日の行事では5分前の精神意識が各団員に充分行き渡っていて、全体の動作が実に見事であったと感じられました。

第37回航空教室実施記録

第1日(10月12日): 快晴

11:00 講師集合、事務局・講師打合せ実施。

11:30 受付開始 事務局 千葉団2名、森田、杉崎(女性1)、羽田団1名、水野、神奈川団2名、山中、齋藤(現地合流)、宮崎団3名、牧野、野田、牧野(女性2)、大阪団2名、外山、太田、千歳団3名、高橋、三浦、高橋、有明佐賀団3名横尾、乙益、森田(女性2)、福岡団3名、山崎、清水、山口(女性1)、受講生19名

12:00 開講式挙行 3階会議室、国旗に対し敬礼、国歌斉唱、本部長訓示、受講者代表宣誓水野団員(羽田団) 講師及びスタッフの紹介、事務局通達、



中西 航空少年団本部長の訓示



研修生代表「誓いの言葉」

12:17 記念写真撮影(室内、室外)、荷物等バス搭載、25名全員乗車



- 12:35 バス（KM観光）出発、 羽横・湾岸道路経由、昼食弁当車内喫食
13:20 常磐道守谷サービスエリアにて休憩
13:35 同サービスエリア出発
13:58 土浦北インターチェンジ出口、一般道路県道 199 号線筑波山方面、県道 150 号線笠間方面へ、
14:20 「つくばね」到着。「石岡市国民宿舎」（受講者 1 名合流）途中道路状況良好早着
14:40 小ホールへ荷物搬入し、待機。早着し、15 時チェックインのため。事務局通達。
- ・石橋訓練担当講師から、予定外の待機時間中に以下のようなコメントがあった。
本日は、天候および交通状況にも恵まれて、計画よりも早く目的に到着できました。これは受講者の皆様方の日頃の心掛けがよかったことも幸いしていると思います。
これから始まる訓練期間中を通じて、この心掛けを忘れずに団体生活に最も大切な「時間を守る」ことに心掛けて下さい。そのためのヒントが「5 分前の精神」です。予定時刻の 5 分前には、いつでも行事に取り掛かれる態勢を整えておいて下さい。



- 15:00 全員入室、体操服装に着替え、
15:30 グラウンドに集合、「集団基本行動訓練」
1. 集団基本行動訓練心得 石橋講師
 - ・訓練の第一歩から、集合時間に全員が見事に揃いました。実は、数名の団員が 5 分前に集まったのですが、帽子を忘れてきたために、急いで自室に戻り着帽して出直しましたが、遅れることなく十分に集合時間に合いました。これは、5 分前の心掛けの成果です。訓練期間を通して時間厳守に努めましょう。
 - ・本部航空教室の目的及び航空少年団活動における標準化の意識の説明並びに航空少年団の安全で楽しく団員に役立つ団活動が少年団本部テキスト及び制服、器材などの支給、貸与によって展開されている仕組みの説明があった。
 - ・全国の航空少年団は、少年団テキストに述べられている考え方や方法論に従って、標準的な活動を展開することが大切です。そのためには、普段からテキストに親しむと共にその大切さを理解し、それが自分にもできると考え、実行する気になる「意識の変革」が求められます。それを実際に実践して自己変革を果たさなければなりません。皆さん一人一人の自己変革の成果を集約することによって少年団としての

「チームの変革」が達成されます。

15 : 45 2 . 集団基本行動訓練実技 中川講師

- ・ 只今、石橋訓練担当講師からご説明頂いた集団基本行動訓練の心得に沿って、お手元の資料を参考に実技訓練を行います。先ず、柔軟体操を実施してから、基本行動の演練を行い、引き続き団体行動訓練へと進めて参ります。
- ・ 柔軟体操：日頃、団活動において指導する際は、朝のラジオ体操でも同様ですが、団員に手本を示す訳ですから、手足を伸ばすところはしっかりと伸ばして、節度ある体操を行うように心掛けて下さい。

(1) 集団基本行動訓練

基本行動訓練：気を付け、休めの姿勢、右（左）向け右（左）、回れ右、室内の敬礼、挙手の敬礼等の基本行動の演練。

団体行動訓練：集合（縦隊、横隊）、整列、人員点呼（番号、人員報告）指揮者への報告、団活動実務への応用、号令の掛け方、報告要領（報告者と指揮者）、解散要領など、応用訓練。

(2) 団体行動応用訓練：通常の団活動において実施している集合、人員点呼などの実務を円滑に行うための応用訓練を実施。



16 : 50 訓練終了、解散。 休憩・小ホールへ移動

17 : 00 アイスブレイクの1事例としてのゲーム「私は誰でしょう？」 沖野講師

アイスブレイクとは、見知らぬ人々が一緒に会議を開催又はレクリエーションを行うときに、お互いに打ち解けるために考案された方法論です。

小中学教師向けのレクリーダー養成ゲームの一つを準備してきたので紹介する。

動物の名前を書いた絵札を背中に着けて、初対面の受講者仲間と握手をして、相互に自己紹介した後、背中の絵札をお互いに見せ合い、絵札に書かれている動物名を推定するために相互に質問します。どこに住んでいますか？何を食べていますか？体はどんな色をしていますか？木登りができますか？牙を持っていますか？などの質問です。各々一問ずつ尋ねて下さい。何人かに同様の質問を繰り返して背中の動物名が分かったら発表して貰います。動物名カードには、その特徴などが詳しく記述されています。

このようなゲームを通じてお互いに心を許しあって、ざっくばらんな意見交換やレクリエーションを展開することを目指しています。これを「アイスブレイク（氷を解かす）」と言っています。（他にもさまざまな方法論があります）。



17:45 アイスブレイク終了。解散。食堂に移動して夕食。（夕食まで計画通りの進行であったので、運営事務局・訓練担当との協議により、18:30に次のプログラムを繰り上げることに決定し、事務局から通達した。）夕食時間45分。

18:30 各団活動報告会

今年度は、日本の南方少年団から順番に発表を行うこととなった。

1. 宮崎団 発表者：牧野みつる、野田貴靖、牧野ちなつ

宮崎空港ビル内の「オアシス広場」を使って多くの団活動を展開している。

入団試験を実施して新入団員13名を迎えた。入団式をはじめ、航空基地見学や合宿訓練、ペットボトルロケットや飛行シミュレータ、消防署見学や、冬季キャンプ、クリスマスパーティなど多くの団行事実施状況をパワーポイント写真集で紹介された。



行事には、制服制帽で参加することがポリシーで、制帽を忘れた団員が見学行事に参加できなかった事例もある。それほど規律を重んじている。

団員・幹部団員総勢80名体制で毎回40～50名の多数参加者で団活動を展開している様子が発表された。

Q & A :

Q : 入団試験で不合格させることもあるのですか？テスト内容は？

A : 合否の試験ではなく、その団員の性格を把握するために実施しています。

テスト内容は、性格を把握するための設問で構成しています。

- 2 . 有明佐賀団 発表者：横尾紘明、乙益美穂、森田智香子、
創立 14 年、キャプテン 26 名、マーシャラー10 名、トレーニ - 10 名、今年入団
者 5 名。2011 年に団活動の危機を迎えたが、S G C 社の中山社長のお陰で、
復活できている。募集範囲を小学校 3 年生からに改めたところ、この 2 年間
で新たな団員 7 名を迎えることができた。
団活動は、写真のとおり毎月活発に実施している。特に、中山社長のご配慮で、
Y S - 11 のシミュレータやセスナ機実機フライト体験なども実施している。佐
賀空港「空の日イベント」などで、我が団員が空港設備（V O R / D M E 航法
設備）の説明役などを手伝っている。その他多彩な活動風景がパワーポイント
で紹介された。



- 3 . 福岡団 発表者：山口由起、清水卓朗、山崎幸一（役員）

平成 3 年 6 月発足、役員 10 名、団員 10 名（空の日に募集活動を実施して今年
新入団員 4 名を迎えた）

フライトシミュレータや、パソコンシミュレータの練習などを実施。その他に
もキャンプ場での野外炊飯などを実施する写真が紹介された。今年は、成田空
港を訪問し、千葉団と交流を行う予定です。

歴史が古い割には、団員数が少ないことが心配されている。福岡は大都市で空
港も繁栄しているので、一層の組織的な取組みが期待されている。



4 . 大阪団 発表者：太田創一朗、外山拓実

大阪団では、アポロ隊（高校生 9 名）ボイジャー隊（中学生 17 名）およびフライヤー（小学生 16 名）合計 42 名（新入隊員 7 名）並びに幹部・マーシャラー 40 名体制で活動を展開している。

毎月年間計画に基づいて、4 月に入団式、進級式、5 月飯盒炊飯などと毎月計画的に団活動を展開している様子がパワーポイントで紹介された。

ヨット、パラセール、スキー、登山、空の日行事参加、サマーキャンプなど多彩な団行事が組織的に展開されている状況が紹介された。

Q：幹部団員が 40 名とは、非常に羨ましい体制ですが、皆さん行事に参加して協力して下さっているのでしょうか？

A：40 名が登録されているということですので、普段の団行事で指導頂いているのは、主にマーシャラーです。



5 . 神奈川団 発表者：齋藤聡介、山中祿宏

神奈川団は、団員が休団者も含めて約 60 名、役員（理事）21 名体制で年間の活動計画に基づいて毎月の団活動を展開しています。筑波宇宙センターや、防災センター、羽田空港整備場（JAL や ANA）見学、シミュレータ体験搭乗、厚木基

地見学、夏季合宿訓練におけるパラグライダー訓練、紙飛行機製作・飛行競技、年末パーティなどの年間行事をパワーポイントで紹介された。

特に今年は、夏季合宿訓練を羽田団と合同で実施したので団員たちが歓迎し、仲良く楽しく開催できた、と好評でした。

神奈川団では、理事会が充実していて、幹部団員も出席して行事計画の作成、行事の下見調査や危機管理計画の作成などを定例理事会で討論する場を設けて、組織化された団活動を展開している。21名の理事が担当業務を分担していて、毎月の行事を手分けして準備している。この他、活動資金を確保するための「賛助会」を編成して、航空分野の有志から資金面でのご支援を頂いている。



6. 羽田団 発表者：水野景太

昭和63年10月23日創立。役員13名、幹部団員23名、団員46名体制。

パワーポイントで紹介のとおり、毎月計画的に団活動を実施しているが、参加人数が少なくて困っている。

夏合宿では、神奈川団に合流させて頂いてパラグライダー訓練を実施した。

これは非常に有難かった。神奈川団に感謝している。

12月のさよならパーティでは、羽田空港でユニセフの募金活動を実施して五万円程集めて寄付している。今回の航空教室で学んだことを体で覚えて団に持ち帰って実践してみてください。



23名の幹部団員が名を連ねているが、なかなか参加できない状態で、団員の組織化が課題であると考えている。

7. 千葉団 発表者：森田紀代美、杉崎雅斗

2月に航空教室（沖野講師）を開催したが、6名と参加者が少なかった。3月には成田の公園でバーベキュー、4月成田空港の格納庫見学、ANA見学、税関見学など、という具合に主に成田空港周辺で団活動を展開しているが、参加者数が今一つ少ない状態である。

そこで、保護者説明会などを開催して協力をお願いしている。6月には、7名の入団者があった。今年は、福岡団を迎えて交流を図る予定です。

成田空港のお膝元団なので、さらに活発に団活動を展開していきたい。



8. 千歳団 発表者：高橋光浩、三浦謙吾、高橋慶浩

千歳団は、パラセール（専用パジェロで牽引）、スポーツカイト、フォックスハンティング、基本行動訓練、紙飛行機、ペットボトル、夏季合宿訓練、スノーモービル（7台所有）など、季節に合わせた団行事を展開している様子がパワーポイントで発表された。

定期総会では、団員30名、理事10名が出席した。

Q：スノーモービルはどのようにして購入したのでしょうか？

A：総て個人の所有物を使わせてもらっている。

Q：団員確保はどのようにしていますか？

A：空港のイベントなどに参加して募集活動を実施している。毎年コンスタントに入団者が確保できている。

Q：活動資金が潤沢のようですが、どのように確保していますか？

A：空港関係各社などからの援助金で賄っています。



20 : 30 発表会終了。休憩。

20 : 35 スタッフミーティング

- ・パラグライダー訓練所における受訓に関する誓約書の最終とりまとめ。
- ・受講生1名の体調不良について、報告。引き続き休養させることとする。
- ・第2日の訓練予定について：
好天候が予想されるので、すべて予定通りに訓練が実施できる見込みです。
早朝訓練までは予定通り実施して、パラグライダー訓練所へのバス出発を20分ほど早めることで、各班長に周知した。具体的には、朝食終了後の休憩時間を短縮してできるだけ早く（8時半までには）バス移動で出発を目指す。
- ・本部事務局長から、この航空教室は各団から指導者要員が参加し未成年者も混在していることから期間中を通じて「禁酒」としますので、周知されたい。この機会に各団受講者の交流を図ることは大切ですが、「指導者教育」の主旨からもこの方針を遵守されたい。

21 : 00 修了。解散。入浴。受講者間交流。

23 : 00 消灯。就寝。

第2日（10月12日）：快晴

06 : 00 起床、洗面、

06 : 30 早朝訓練

全員集合、人員点呼、報告

朝の一言：石橋訓練担当講師からの一言：

団体生活における時間厳守の大切さが自覚されて見事に実行できています。「5分前の心掛け」を本日も継続して発揮しましょう。

ラジオ体操では、体をほぐす目的で実施しますので、ただ手足をぶらぶらさせているようなことでは効果がありません。手足の伸縮を節度をもって実施することに意義があります。団員の手本となって下さい。

1．ラジオ体操

2．集団基本行動訓練、第1日の訓練に加えて、号令調整訓練も含む。

3. 誓い、心構え、挨拶の練習（リーダー：齋藤聡介・神奈川団員）

中川講師の指導で、十分な訓練が実施できた。

07:25 石橋訓練担当の講評：

ラジオ体操、基本行動訓練、誓い、共に大変よく出来ました。何事も、その目的と効果を意識して取り組めば必ず上手くいくことが証明されました。

今日も一日、パラグライダー教官等の注意事項を傾聴して、安全で楽しくパラグライダー訓練及びその他の科目に臨みましょう！

07:30 朝食、長袖パラグライダー服装に着替えて集合準備。

08:45 人員点呼実施。バス乗車。ホテルバスにてパラグライダー訓練センターに向かう。

09:05 Air Park Coo パラグライダー訓練所に到着。人員点呼、全員で鈴木チーフインストラクターに挨拶。教室に入室、着席し、ビデオ教材を視聴。

立ち上げ練習の様子。タンデムフライトの様子。準備体操。パラグライダーの部品の名称とその操作状況。バリオメーター（上昇・降下探知機）の作動音、飛行速度は時速約 30 kmなどの予備知識を学ぶ。

この間に、事務局は訓練所に対し誓約書、保険加入書類などの手続きを実施。



09:35 タンデム飛行組出発 第1陣 8名 西側離陸場へ

残り 11名は、立ち上げ訓練場に移動（東側スロープ）

09:50 立ち上げ訓練開始。柔軟体操実施。

ラインチェックの方法。ハーネスの装着法。ライザーをハーネスに取り付ける方法。ブレークラインの握り方。ライザーの握り方。風に向かって走る要領。

二人一組になって交互に立ち上げの練習を行った。しばらく訓練を実施したが、風向風速が不適のため、平地の訓練場に移動して実施した。風向風速の状態が少しよくなって、旨く立ち上げられる受講者が続出した。

（鈴木チーフインストラクターの風向風速の観測並びに判断・決断の速さに感心させられた）



- 11 : 25 午前の訓練終了。パラグライダーの収納要領を実習。
- 11 : 35 訓練所建屋に徒歩で移動。午前のタンデムフライト組も終了した者から順次帰投してきた。
- 昼食。(仕出し弁当) 訓練所から豚汁のサービスがあった。
- 12 : 20 午前中は、比較的風向風速の状況がよく、予定以上の13名が飛行できた。
- 12 : 45 午前中飛行終了者が全員帰投した。昼食。
- 午後フライト予定者5名を指定して集めたが、インストラクターの報告では、離陸場の風向風速が好ましくなくなっているため、「しばらく待機」との連絡が入った。そこで、午後フライト予定者も皆と一緒に立ち上げ訓練に参加して、離陸場の状況が好転したら、移動することとなった。
- 13 : 30 東側スロープへ全員移動。全員が二人ずつのペア - を組んで立ち上げ訓練を開始した。風向風速が好転し、かなり上手く立ち上げて浮き上がる(飛行)ことができた受講者が続出した。
- 15 : 00 離陸場の風向風速がよくなったという報告が入り、飛行予定者5名が訓練所の車で、離陸場に向かった。
- 15 : 35 訓練終了。パラグライダーの収納方法の練習を兼ねて撤収作業を行い、全員訓練所へ引き上げる。一部受講者、徒歩にて帰投。
- 16 : 05 タンデム飛行組が東側離陸場から飛行を開始する旨報告が入った。
- 訓練所横の平地立ち上げ訓練所が着陸地点となっているため、受講生一同は現場へ移

動して着陸を見学することとなった。

三浦謙吾、牧野みつる、横尾紘明、山中祿宏、高橋光浩の各受講生が次々と全員が見守る中でタンデムフライトを行って、見事に着陸した。飛行希望者の全員 18 名が無事に飛行を体験できた。





16 : 30 全員、訓練所に集合、インストラクターにお礼を述べて、チーフインストラクターから好評を頂いた。特に、パラグライダーは風向風速などの状態が大きく飛行に影響するので、決して無理することなく安全第一で楽しむべきスポーツです、とのアドバイスを頂いた。3つの真理のうちの「自然の法則には逆らえない」に該当する貴重な話であった。

16 : 45 送迎バスに乗車して「つくばね」へ帰投。

17 : 00 入浴。

17 : 45 夕食。スケジュールが円滑に進んだため、20分予定を繰り上げて18 : 40から安全講話を開始することとし、全員に周知した。

18 : 40 安全講話 石橋講師

パワーポイントを使用して、安全で楽しく団員に役立つ団活動を展開するために必要な安全に関する取組みの重要性を、「航空少年団テキスト」及びその中に新しく掲載されている「安全管理マニュアル」をベースに分かり易く解説された。安全の問題だけに受講者は熱心に傾聴した。



19:45 10分間休憩、次の「救急救命処置」の講習の準備を実施。

19:55 救急救命処置 沖野講師

「心肺蘇生の流れ」

「AED（自動対外式除細動器 = Automated External Defibrillator）」の使用法について、日本赤十字社の参考資料に基づいて、分かり易く説明があった後、数名が実習を行った。航空少年団の「誓い」にあるとおり、いざというときに、「社会に役立つ青少年」になるためには、必須の知識であるため、受講者は熱心に傾聴した。



20:45 紙飛行機の作り方の紹介 沖野講師

今回もまた、数種類の紙飛行機の製作見本をご用意頂き、実際に作成方法を実習した。団行事においても雨天のための裏番組として活用できるもので、団に持ち帰って活用できる科目であった。一同、沖野講師に感謝した。

21:20 スタッフミーティング

事務局から、今回本部から支給した半袖のポロシャツを全員着用して早朝訓練に臨んでほしい。記念写真を撮影します。

今回は順調にスケジュールが進んでいますので、明朝も朝食を早めに済ませて、出発準備を行って頂き、08:30に羽田に向けて出発できるように行動して欲しい。羽田総合センターでは、シミュレータ体験搭乗を準備して待っていますので、少しでも長い訓練時間を確保したい、とのアナウンスがあった。

21:35 解散、受講者自由交流。

23:00 消灯、就寝。

第3日（10月14日）：快晴

06:00 起床、洗面

06:30 早朝訓練、ラジオ体操、集団基本行動訓練、朝礼の練習（誓いの言葉、心構え、

挨拶の練習を含む、3日間の総復習的位置づけで、実施。実際に夏合宿等で各団が実施している順序に従って、朝礼の練習まで実施した。

07:30 記念写真撮影（グラウンドで全員）



07:35 朝食、片付け、身支度（飛ぶ鳥、跡を濁さず、です。綺麗に片づけよう！）

08:35 全員集合人員点呼、25名バス乗車（KM観光）県道150号線、199号線を経て、

09:00 土浦北インターチェンジから常磐道を東京方面へ向け走行。

10:00 湾岸道路を羽田方面へ

10:20 羽田総合センター到着、会議室着席、シミュレータ体験搭乗に関する説明及び、平出総合センター教官（神奈川団事務局長）を紹介。計器の配列、読み方などを説明。プロのパイロットが有料で訓練を受けている国家認定の正式なシミュレータである。

10:45 シミュレータ第1組搭乗 平出総合センター教官、機材操作補助石橋講師、離陸操作、レベルオフ操作、場周経路飛行、着陸進入、着陸操作を実施。



- 13 : 39 第 5 組全員終了、(教官には、昼食時間をずらして約 3 時間、引き続いて実施して頂き、受講者全員が実施できた)
この間に、シミュレータ搭乗者以外はロープ結索演習などを実施 (沖野講師)
作文作成を並行して実施。
- 14 : 15 閉講式 君が代斉唱に引き続き、全受講者に修了証書を手渡した。



- 14 : 21 副本部長講評
新井副本部長から恒例の航空教室全般についての講評が行なわれた。今回は天候に恵まれて、これまでになく完璧な航空教室が運営できた。受講者の熱心な訓練への参加及び講師の熱意あるご指導並びに事務局の周到な準備の賜物であった。



14：43 受講生謝辞 代表高橋慶宏団員（千歳団）

14：45 事務局スタッフに対し、参加者全員から御礼を申し上げた。

14：50 解散

（記録：訓練担当講師 石橋明）

今年の航空教室は事故もなく天候に恵まれた 3 日間で、しかも非常に内容の濃いプログラムで行なわれ参加して頂いた団員の皆様には充分満足して頂けたのではないのでしょうか。今回の研修成果をそれぞれの団に持ち帰って活用していただければ幸いです。

また、毎回一生懸命に支援して下さる講師の皆さんと、協力して頂いた各地の航空少年団のスタッフの皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。